

○もう少し具体的な定量目標を立てて、KPIを設定し、アクションプランを立てていくことが現実の目標達成に向けての秘策だと思う。時代とともに背景も変化していくので、目標の見直しが必要。

○地域交通ビジョンのフォローアップ会議では、KPIの達成に向けてどういう努力をしたか、なぜ実現できなかったか、今後どういう努力をしていくかということを報告するべきである。

○富山県は日本の地方の中でも、公共交通で大きなポテンシャルがあると思うので、わくわくするようなことをやっていくような、前向きな方向でビジョンの改定をされると、楽しくなるのではないかと思う。

○ビジョンを作るうえで、耐え忍ぶだけではなく、夢と希望、MaaSなども取り入れると、みんなで頑張ろうという考えになるのではないか。

○コロナ収束後に、需要をどう拡大していくかが今後の経営の大きなテーマになる。交通事業者だけではなく、周辺の施設や商店街のお店と連携して、利用者や売上げを増やすための計画やプランを考えていくことが必要。

○県から、新しい公共交通事業に向けての方法や、事業の変革に対しての新しい政策などを打ち出してもらえると長期的なものにつながるのではないか。

○日本の交通事業者は、世界的にもデジタル化、DXが非常に遅れている。コロナ後を見据えて、データ収集や解析、それに向けての開発をしていく必要があると感じている。

○利用者の生活様式や交通環境なども考えて、連携しながら改善を加えてほしい。

○関係機関との連携や、せっかくの取り組みや安心・安全のPRが不足している。

○交通事業者が具体的にどのような苦勞をしているのかなど、県民がもっといろいろな情報を共有できるよう、マスコミがしっかりと情報収集、情報発信をしてほしい。そうすれば、お互いが協力しあうような対策・考え方が出てくるかもしれない。